

刊行にあたって

京都府立大学文学部歴史学科では、京都府下を中心にさまざまな地域をフィールドとして、歴史と文化遺産に対する調査研究を実施してきた。京都府域における調査研究の核となるのが本学の地域貢献型特別研究（ACTR）で、平成28年度は、京丹後市、舞鶴市、宮津市などの地域で、歴史学科教員を代表とする共同研究をおこなった。その成果の一部は、京都府立大学文化遺産叢書シリーズとして公刊しており、本年度も文化遺産叢書第12集として刊行する予定であるが、これ以外にも教員・大学院生・学生によって京都府内外で調査が進められている。そうした叢書に掲載されていない多くの成果を、歴史学科では2年前から『フィールド調査集報』として刊行しており、本書はその第3号にあたる。

本年度からは新たに建築史の教員が加わったこともあって、従来の歴史学・考古学・地理学・文化情報学の調査だけでなく、建造物調査もおこなわれるようになり、より一層多角的な調査が実施された。研究成果の活用・社会的還元が強く求められている今日、こうした調査活動およびその活用事例の提示はきわめて重要と考えている。今号もこれまでと同様に、それらフィールド調査に参加した学生・大学院生たちの活動はもちろん、大学院生による展示解説など、調査成果の活用過程も記録し、文化遺産の調査から活用に至るプロセスが理解できるように配慮したつもりである。

本書は4部から構成されている。第Ⅰ部と第Ⅱ部は歴史学科教員を中心として各地で実施している地域の歴史と文化遺産の調査についての報告集で、第Ⅰ部は京都府域、第Ⅱ部は京都府外の諸地域を対象としている。第Ⅲ部と第Ⅳ部は歴史学科の学部生と大学院生を主な対象として実施している課外の研修プログラムの報告集で、第Ⅲ部は文化遺産デザイン研修、第Ⅳ部は文化遺産フィールド研修の報告を収録している。本書を通じて、歴史学科の活動と地域貢献の一端をご理解いただくことができれば幸いである。